



目 次

第57回金沢大学暁烏記念式・記念講演	
菩薩として生きる（金沢大学名誉教授 杉本 卓洲）.....	2
金沢大学学術情報リポジトリ KURA 公開！	
5分で分かる金沢大学学術情報リポジトリ KURA.....	4
図書館のトピックス.....	8
図書館のバリアフリー対策.....	8
中央図書館で予約施設の利用が急増.....	8
サービスカウンターを改修.....	8
「大学・社会生活論」「情報処理基礎」で図書館員が講義を担当.....	9
ミニ展示会を開催.....	9
就職支援室から.....	10
本学教員著作等寄贈図書リスト - （2006年3月～5月）.....	11
としょかん日誌（2006年3月～5月）.....	12



サッカー・ワールドカップ開催

第57回金沢大学暁烏記念式・記念講演

菩薩として生きる

金沢大学名誉教授 杉 本 卓 洲

1. 菩薩の意味

菩薩の原語はボーディサッタ(ボーディサットヴァ)で、「菩提薩埵」と音訳される。菩薩とはその短縮形である。ボーディ(菩提)は「悟り」、サッタ(サットヴァ、薩埵)は「生きとし生けるもの(衆生・有情)」を意味し、二つのことばよりなる複合語である。

ブッダに対する呼称として始まった。次のように四段階に分けられる。

出家して菩提樹の下で真理に目覚めるまでの修行(苦行)期間。「悟りを求め努力するもの」、すなわち「求道者」を指す。

誕生時。菩薩はトソツ天より白象となって母マーヤーの胎内に降臨し、生まれるや北方に歩行し「わたしは世界の第一人者である」と叫んだ、というように表わされる。「悟りを得ることの確定したもの」を意味する。

過去世。サルやゾウなどの動物まで菩薩と呼ばれ、ブッダの前生の身とされる。常に善行をなしているとは限らない。「悟りが潜在的で未発達なもの」の意。しかし、後世には献身的な者へと変容し、「悟りへの勇猛者」を表わすようになる。

青年期。結婚して子どもをもうけた時期。在家者も菩薩と呼ばれたことを示し、後期の適用。「悟りの可能性を内在するもの」。

このほか、「悟りが有情の形をとっているもの」、「悟りへの心を持つもの」、「悟りに執着するもの」、「悟りの達成に向けて全存在をかける人」、「菩提心を起こす原動力である如来蔵を具えた衆生すべて」と言った具合に、種々に定義づけられる。菩薩の意義や定義は経論の

数ほど、学者の数ほどあると言っても過言でない。

2. 菩薩の種相

菩薩は何も大乘仏教の専用語ではないが、大乘仏典に多く登場し、大乘教徒イコール菩薩と言うようになる。大体二種に分けられることが多い。出家の菩薩と在家の菩薩、山間(せんげん)の菩薩と人間(にんげん)(世間)の菩薩、不退転の菩薩と退転の菩薩、成就の菩薩と敗壞の菩薩といったように、である。

出家の菩薩とは山林に入り、ただ独り禅定に励み、文字通り「空」(空閑処)に住む者である。頭陀行を守り、在俗者はもちろん、同じ出家の仲間とも交わらず、僧院に来るのは病気とか説法・聞法のためとか限られていた。しかし、村里の中か近くにある僧院に住む出家の菩薩の方が、多数を占めていた。前者は山間の菩薩であり、後者は人間(世間)の菩薩に相当する。両者の間には、生き方をめぐって激しい対立があった。

法華経には、山間の菩薩が「我らは戒行を守っている」と言い、自分らこそ真の道を行なっている者だと主張し、人間の菩薩を軽蔑し卑しんだ、とある。大乘の涅槃経にも、山林の空閑処に住む者は、自分たちこそ真の阿羅漢、大菩薩・摩訶薩である、とうそぶいた、と見える。般若経は、相手を盗賊とかにせ者と呼んだりして、その争いの模様をもっと生々しく伝えている。

このような菩薩同士の争いは、悪魔マールが喜ぶところであった。そこで真の菩薩は争いをやめさせ、一切衆生の橋梁となるべきとされる。ここで言う真の菩薩とは、在家の菩薩を指している。彼らは寺院や仏塔の建立、出家の菩薩たちへの食事や生活用具の供給などに当たるが、特に強調されるのは、病人の看護、教団分裂の阻止、正法の護持の三つである。病人への施薬のみならず、僧院内で病に苦しむ者があれば、自らの生命・血肉を投げ打って治療に当たるべきとされた。

教団分裂の阻止とは、上の記述と関連がある。出家の菩薩たちの争いの仲裁役を果たしたことを示す。正法の護持には、身命をかけて当たるべきとされる。一偈の法のために身を投じた雪山童子(せっせんだうじ)の物語などを想起させ、緊迫した状況を暗示する。

不退転の菩薩は成就の菩薩で、退転の菩薩は敗壞(はいえ)の菩薩に当たる。前者はその名の示す通り、大力あり、どのようなところにも赴き、辺地や邪見をも避けることはない。真金のごとく泥中に入っても壊れることはない。それに対して後者は、発心したばかりの菩薩で、力なく意志弱く、泥中に入ればすぐ錆びてしまう鉄のような者である。名利に執着し、素直でなく、他人の豊かさをねたみ、空の教えを信じようとしない。菩薩とは名ばかりで、修行の伴わない者である。しかし、このような菩薩たちにも、不退転の位を得る道が開かれている。それは周知のごとく「易行道」と呼ばれるもので、陸路を苦労しながら歩む「難行道」に対比される。これは菩薩の道、ひいては仏教自体の広大さを教えるものである。

3. 菩薩とは名字のみ

菩薩とは、一般に六波羅蜜行の実践者とされる。とくに一番目の布施の完成が強調され、利他行・慈悲行に励む者、社会に奉仕・貢献する者と解されている。近年もてはやされているボランティア活動などにつながる側面を有している。しかし、ここでは別の意味で、菩薩の生き方の意義あることを指摘したい。

それは仏教の百科事典とも言える『大智度論』の中に見えるものである。「菩薩というもただ名字(みょうじ)のみにして空なり」、「菩薩は菩薩という名字に着するを破す」というのである。菩薩とは単なる名字に過ぎず、菩薩とは菩薩であることにこだわらない者だ、と言うのである。こういう生き方は、自らを仏教徒として押し出すことなく生きることであって、キリスト教徒が自らをキリスト者と謳い、イスラム教徒が自らの信仰を誇示し、他の宗教者との峻別の中で生きていく態度と大きく異なっている。宗教的対立の激しい今日の世界にあって、菩薩の生き方に学ぶべきものがある、と思うのはわたしのみであろうか。

杉本 卓洲 すぎもと たくしゅう

東北大学文学部印度学仏教史学科卒。
東北福祉大学教授、金沢大学教授、
金城大学教授を歴任。
平成13年から金沢大学名誉教授。



講演中の杉本卓洲氏

金沢大学学術情報リポジトリ KURA 公開！

5分で分かる金沢大学学術情報リポジトリ KURA

2006年6月、金沢大学学術情報リポジトリ KURA が公開されました。

KURA は、金沢大学の教育・研究成果を電子的な形態で保存する書庫です。この書庫を、インターネット上で無料公開するシステムが「機関リポジトリ」です。

機関リポジトリ このちょっとひっかかりのある言葉の持つ意味は後述するとして、まず、KURA とはどのようなものなのか、3つの観点から説明しましょう。

1. KURA は、ショーケースである。

KURA は、金沢大学の教育・研究の成果をインターネット上で無料公開する**金沢大学の業績のショーケース**です。このショーケースに入っている業績は他大学にはない**金大オリジナル・コレクション**です。

このショーケースの特徴は、電子媒体だということです。例えば、金沢大学で発行している紀要を KURA に載せて行けば、金沢大学版電子ジャーナル・パッケージを作ることができます。紙媒体を電子ジャーナル化することで、雑誌の速報性は増し、さらに多くの人に利用されることになるでしょう。

大学の業績を発信するためのプラットフォームとなること これが KURA の第1目的です。

2. KURA は、やっぱり“蔵”である。

KURA というネーミングは、蔵、倉、庫...といった日本語の語感を意識しています。KURA は、やっぱり“蔵”なのです。

KURA に入れた学術情報は恒久的に保存いたします。そういう意味では、文字通り「お蔵入り」なのですが、お蔵入りすることで公開されるという素晴らしい蔵です。

6月12日現在、KURA には、金沢大学の教職員、大学院生等が**学術雑誌、学内紀要等に発表した1,275件の論文の電子版**が登録されています。今後はこれらに加え、**科研費報告書、学位論文**なども登録して行く予定です。

ここで注目されるのが学術雑誌に発表した査読済論文についても各大学等の機関リポジトリに登録できるという点です。90%を超える海外



図1 KURA トップページ。図書館 HP からリンクされています。

金沢大学学術情報リポジトリ KURA

英文名 Kanazawa University Repository for Academic resources の頭文字を取って KURA と名付けました。

次の URL からご利用下さい <http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp:8080/dspace/>

Linux 上で動く DSpace(機関リポジトリ用のソフトウェア)の日本語版を搭載したサーバ1台で運用

出版社が「**著者最終稿**」という限定付きで、機関リポジトリへの登録を認めています(この状況は SHERPA^{注1)}というサイトで検索可能です)。

つまり、世界中の大学が研究業績を自館の機関リポジトリに登録を進めていけば(セルフ・アーカイビングといえます)、学術出版の世界に少なからぬインパクトを与える可能性があります。後述しますが、このことが機関リポジトリの最大の特徴です。

KURAに登録できる、コンテンツについては「国立大学法人金沢大学学術情報リポジトリ運用指針」で規定していますが、将来的には、「**金沢大学の業績のすべてを KURA に入れる**」というレベルを目指しています。KURAに登録可能かどうかの許諾条件、出版社に関する権利処理については附属図書館で調査いたしますので、是非図書館に執筆された論文をご恵贈下さい。

論文を執筆したら KURA へ このキャッチフレーズをお忘れなく。

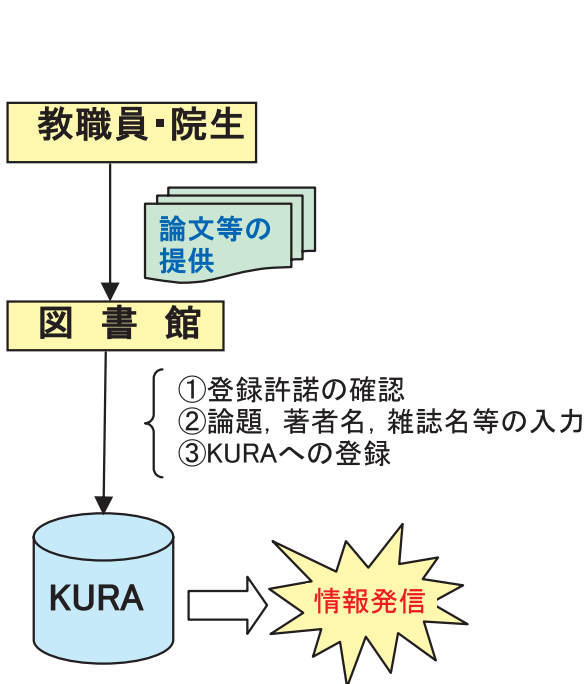


図2 KURAに登録するまでの流れ

3. KURA は、出入り自由である。

既に述べたとおり、KURAはインターネット上に無料公開されています。このことを「**オープン・アクセス**」と言います。無料でアクセスできるのは、人間ではありません。他の外部データベースからも出入り自由となっています。

KURAに登録してある資料のタイトル、著者名、雑誌名といった書誌的な情報(メタデータ)については、外部データベースが定期的に刈り取ってくれる仕組みになっています(このことをハーベスティングと呼んでいます)。例えば、KURAに登録されている論文等は、JuNii(国立情報学研究所)、OAIster(ミシガン大)、Google Scholarといった外部データベースからも検索できるようになります。

KURAのサイトからも検索は可能ですが、一般利用者は、わざわざKURAまで来なくても、例えばGoogle Scholarで検索をしてヒットすれば、自然にKURAに誘導されるようになります。

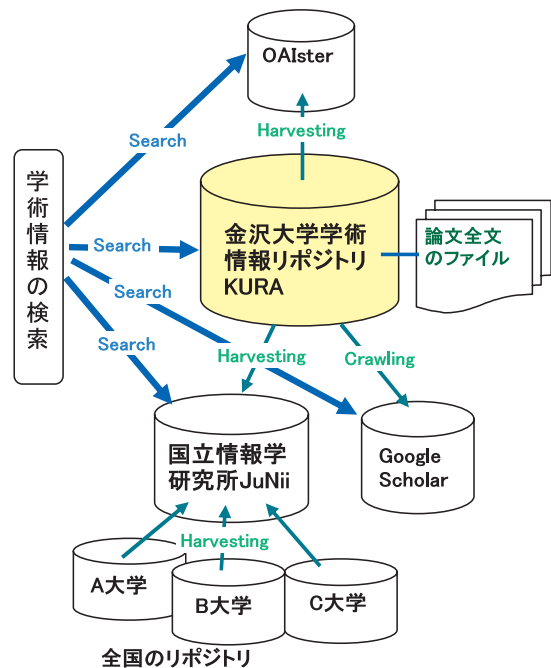


図3 ハーベスティングと検索の概念図

KURA に登録することによって、**各研究者の研究業績の視認性がアップし、引用される頻度が高くなる**。このことは研究者側から見たいちばんのメリットでしょう。

4. そして、KURA は「リポジトリ」を目指す。

以上、KURA の特徴を3つの観点から説明してきました。ここで、最初の疑問に戻ります。「**なぜ、リポジトリという引っかけのある言葉を使っているのか？**」

リポジトリと全文データベース、電子ジャーナルはどう違うか？ 大きな違いはありません。そういう中、敢えてリポジトリという用語を使っているのは、実はこの言葉には、**学術雑誌の価格高騰問題に代表される学術コミュニケーションの不全を改善しよう**という意味が込められているからです。リポジトリというのは「**学術コミュニケーションの流れを改革しよう**」という世界的な潮流の一部に KURA も入っているのだ、ということアピールするためのキーワードなのです。

以下、機関リポジトリをめぐる動向と機関リポジトリが生まれてきた背景について簡単に触れます。

国内外の状況

近年、国内外の大学で機関リポジトリを持つ大学が増えています。欧米を中心に全世界で約690大学が機関リポジトリの運用を行っています^{注2)}。国内では、平成17年度機関リポジトリを公開している大学は2大学のみでしたが、国立情報学研究所の進める**次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業**^{注3)}の下、金沢大学を含む19大学で機関リポジトリの構築を進めており、順次公開されてきています。

機関リポジトリの出てきた背景

機関リポジトリの出てきた背景には、国際政治分野で学術コンテンツの透明性の拡大が要請されてきたことに加え^{注4)}、学術雑誌の価格高騰問題があります。

1990年代、学術雑誌を巡って「**シリアルズ・クライシス**」と呼ばれる価格高騰問題が世界的な規模で発生し、各大学の学術雑誌の購読タイトル数が激減しました。極端な場合、自分の書いた論文を所属する大学が購読できないといった問題が生じてきました。学術雑誌の雑誌発行部数の減少によって、さらに価格が高騰するという悪循環に陥り、**学術コミュニケーションの不全が顕在化**してきました。

この動きに対して出てきたのが「**オープン・アクセス運動**（無料で読める電子ジャーナルの拡大）」です。機関リポジトリは、商業出版社に支配されつつある**学術コミュニケーションの流れを研究者サイドに取り戻すことを目指した新しい情報発信形態**の1つなのです。

5. KURA ひとめぐり

最後に今回公開することになった KURA の機能について紹介しましょう。上述のとおり、KURA に登録したコンテンツは、外部データベースからも利用可能ですが、金沢大学の業績のみを調べる場合は、KURA で探すのが効率的です。登録済のコンテンツを探すには、**ブラウザ**と**検索**の2つの方法があります。

ブラウザ～流し読み

登録されている論文を雑誌名から探す場合には、KURA のトップ画面の左側のフレームにある「**コミュニティ&コレクション**」のリンクをクリックします。部局単位に紀要等の名前の書かれたリストになります。この中から読みたい雑誌名を選びます。

各部局の下には「**学術雑誌掲載論文**」「**紀要**」という2つのカテゴリーがありますが、このうち、「**紀要**」の下に並んでいるのが学内紀要名です。その最後の部分にある数字が登録されている論文数です。

雑誌名をクリックすると、各紀要に収録されている論文名がタイトル順に表示されます。その中から読みたい論文を探し、クリックすると、



図4 ブラウズで探す

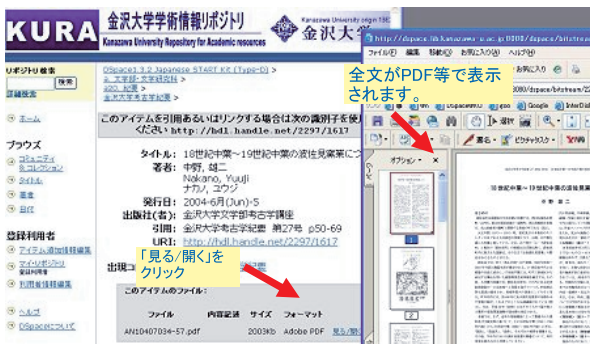


図5 全文を表示する

論文の書誌事項の書かれた画面になります。画面のいちばん下の「見る/開く」をクリックすると全文が表示されます。

もう一つの「学術雑誌掲載論文」のグループには学外の学術雑誌に発表した論文の著者最終稿などが収録されています。

検索

画面の左上の「リポジトリ検索」の枠の中に通常の検索エンジンを検索するようなイメージでキーワードを入れて検索をします。「詳細検索」をクリックすれば、「著者」「タイトル」など検索項目を絞った検索が可能です。

KURA への登録手順

トップ画面の右側のフレームからは、KURA への登録手順、各種資料を参照するためのリンクが張られています。このページにも書いてありますが、情報企画係宛に論文の著者最終稿をお送り頂ければ、調査の上、登録可能なものから KURA に登録いたします。

6. 今後の予定

教員総覧用の研究業績データベースと KURA とのリンクを検討中です。学内の研究業績を登録する場合は、教員総覧の方に登録して頂ければ、KURA にもデータが流れてくるような仕組みを作り、登録作業の効率化を図る計画です。

*

機関リポジトリの構築は、各大学において、今後、重要性を増していくとされています。本学の KURA は、まだまだ小さな KURA ですが、これからもっともっと大きな KURA に育っていくよう、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

参考ページ

- 注1 : SHERPA <http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>
 注2 : Registry of Open Access Repositories eprints <http://archives.eprints.org/>
 注3 : <http://www.nii.ac.jp/irp/>
 注4 : 筑木一郎：英米両国議会における学術情報のオープンアクセス化勧告（カレントアウェアネス No. 282, 2004, CA1544）
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/current/no282/doc0008.htm>

(情報企画係・橋 洋平)

図書館のトピックス

図書館のバリアフリー対策

図書館では学内各組織と連携し、お年寄りや身体の不自由な方だけでなく、全てのお客様がご利用しやすいよう、施設のバリアフリー化に取り組んでいます。

昨年度は、車椅子でも使いやすいよう2階トイレとトイレ前廊下の照明に点灯センサー装置を取り付けました。

また、大学教育開発・支援センター及び学生支援課から、目の不自由な方用に2階情報コンセントブースに拡大読書器を設置していただきました。

なお、正面玄関ドアの改修については未整備ですが、自動化をお願いしているところです。

中央図書館で予約施設の利用が急増

中央図書館及び自然科学系図書館にある利用者用の各予約施設は、図書館ホームページから3ヶ月先までを予約できるようになっています。

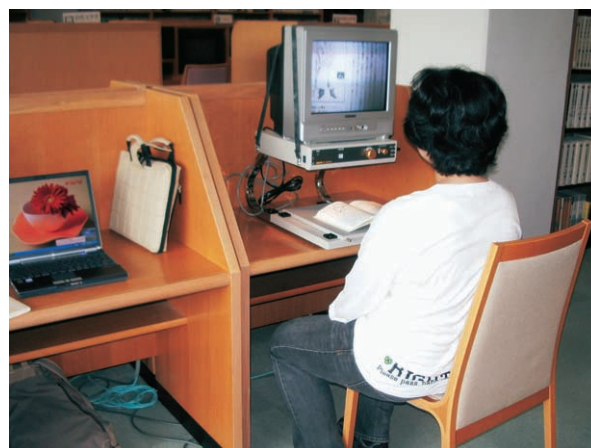
昨年度は中央図書館で予約施設の利用が増えたため、旧マイクロ資料室を演習室Cとして利用できるようにしました。また、今年度から部屋の利用が円滑にできるよう、鍵の受け渡しを簡素化しています。

現在も多くの予約が入っていますが、中央図書館演習室は簡易間仕切のため遮音が十分ではありませんので、ご利用の際は閲覧室へ音が漏れないようご協力をお願いします。

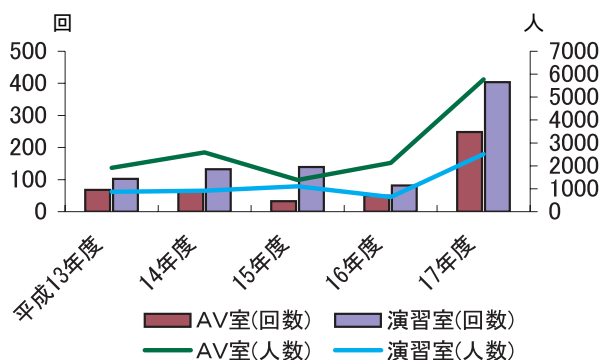
サービスカウンターを改修

中央図書館カウンターが3.6m短くなりました。これまで書庫へ入るためにはカウンターを大きく迂回しなければなりませんでした。少し使いやすくなりました。

改修を機に新たに「何でも相談」窓口を設置しました。図書館の利用に関するご相談はこちらへお寄せください。



設置された拡大読書器
(中央図書館2階情報コンセントブース)



中央図書館予約施設の利用総計



中央図書館サービスカウンター

「大学・社会生活論」「情報処理基礎」 で図書館員が講義を担当

今年度から新一年生を対象として新たに開講された、「大学・社会生活論」の第4回と「情報処理基礎」の第5回、第6回の講師を図書館員が担当しました。

「大学・社会生活論」では、これまで開講されていた「大学図書館への招待」で行っていた内容をもとに、図書館の利用についての講義を中心とし、まずDVD「図書館へ行こう!」を上映しました。その後パワーポイントを用いて図書館の利用方法の説明を行いました。

また、「情報処理基礎」では、大学図書館を使った情報検索の基礎について講義しました。第5回では、主にOPACを用いて金沢大学の蔵書の検索、第6回では、論文や雑誌記事などの学術情報を検索するためのデータベースの紹介を中心に講義と実習を行いました。

講義を受けた学生の中には、「一部しか利用していなかったが、いろいろ利用していきたい」などの意見があり、この2つの講義を通じて、大学図書館をより身近に感じてもらえるようになったと思われます。



総合教育棟 C10教室での講義風景
(今年度から新学部一年生を対象に、PCを使って学習する必修科目が開講されています)

ミニ展示会を開催

6月7日から7月9日の期間、サッカーワールドカップドイツ大会が開催されました。

中央図書館ではこれを記念し、閲覧ホールで所蔵する資料の中から、サッカーや開催国のドイツに関連する資料を中心として選び展示しました。

また、期間中 EU 関連の配布用資料や地図も併せて展示しましたが、在日欧州委員会発行の「EUとユーロ」(第2版)は程なく品切れとなり、同委員会から追加で送付していただくこととなりました。



表紙の写真

ドイツでは古くからブタは幸運のシンボルとされています。1匹は背景のドイツ国旗と同じ色に化粧しています。

また、青地に12個の星の旗はEU(欧州連合)の旗で、金沢大学附属図書館は1985年からEU資料センターとして設置されています。

就職支援室から

就職支援室では中央図書館の正面ロビーから入って左手の開架図書棚の一角に、就職支援図書のコーナーを設けています。学生の皆さんの就職活動等に役立つような図書を揃え、利用に供しています。

図書の内容としては、例えば、面接や履歴書の書き方・自己PRの仕方等の就職活動に関するノウハウ的なものから、公務員試験や司法試験・その他検定試験等の参考書・問題集、そして、業界・仕事研究的なものまで幅広く開架しています。

利用率も高く、平成17年度末現在の統計では、中央図書館で貸し出された図書の23.4%は就職支援図書が占めています。就職支援図書の冊数は833冊（平成17年度末現在）程度ですが、46万余冊^{注)}という膨大な蔵書のある中での利用率なので、関心の高さがうかがえます。

学内でも、就職支援として様々な就職ガイダンス等を実施しているところですが、個々のニーズも違いますから、最終的には、自分自身で就職活動や進路に関することを調べる

必要がどうしても出てきます。それに関わる図書を全て自分で揃えることはお金も時間もかかりますが、図書館には、そんな皆さんの要望を満たす有用な図書が揃っています。

まだ、見たことがない人は、一度、どんなものがあるのか手にとって読んでみるとよいでしょう。それらを活用しながら、円滑に進路選択や就職活動を進められることを願っています。

注) OPAC に登録済の蔵書数



書架に並んだ就職支援用図書

学生部就職支援室 高瀬 政仁

館内 BGM が変わりました

6月から中央図書館の閉館をお知らせする BGM が新しくなっています。

音楽はインターネットで「机の上の交響楽」を主宰する、ぴっころ様から作品をご提供いただきました。

机の上の交響楽 <http://homepage1.nifty.com/PICCOLO/>



ありがとうございました

本学教員著作等寄贈図書リスト 2006/3～2006/5

高橋豊（がん研究所腫瘍外科助教授）著

Tumor dormancy therapy の実際

：外科医からの提案

前田書店 2005 .11（医図 QZ266:T136）

谷内江昭宏（大学院医学系研究科教授）

共同執筆

ネルソン小児科学：原著第17版

エルゼビア・ジャパン 2005 .11

（医保図書室493 .9 :N425）

野村眞理（経済学部教授）

弁納オー（経済学部教授）共編

地域統合と人的移動

：ヨーロッパと東アジアの歴史・現状・展望

御茶の水書房 2006 .3

（図開架334 .4 :C534）

安村典子（文学部教授）訳

メタモルフォーシス：ギリシア変身物語集

講談社 2006 .3（図開架991 .3 :A635）

李慶（外国語教育研究センター教授）共訳

明季党社考

上海古籍出版 2006 .1

（図開架222 .058:O58）

藤沢法暎（名誉教授）著

ナショナリズムと歴史教科書問題

DTP 出版 2006 .4（図開架375 32:F961）

城戸照彦（大学院医学系研究科教授）編著

公衆衛生学

光生館 2006 .3（医保図書室498:N163）



「図書館へ行こう！」の ビデオができました

「図書館のトピックス」でも少し触れていますが、今年度から始まった学部一年生必修科目、「大学・社会生活論」で図書館の利用方法を紹介するビデオを製作しました。

企画・製作は大学教育開発・支援センターと金沢大学IT教材作成支援室が共同で行っています。ビデオは17分と短い時間ですが各シーンで新人俳優さんたちが好演しています。

予告 『大四高展』開催

金沢大学の前身校の一つである第四高等学校の開学120周年を記念して、この秋に行なわれる平成18年度附属図書館・資料館特別展では、『大四高展』を開催します。

明治19(1886)年、近隣県との激しい誘致競争の末、金沢に第四高等中学校の設立が認可されます。金沢への誘致にあたっては、地元の並々ならぬ熱意があり、県民から多額の寄付金も寄せられました。明治27(1894)年には、高等学校令の公布により第四高等学校と改称します。その後、昭和25(1950)年3月にその歴史を閉じるまでの60年余りの間、「四高」は「学都金沢」を象徴する存在でした。

今回の特別展では、金沢大学が引き継いだ資

料、蔵書を中心に、第四高等学校関連資料を一室に集め、学都金沢のシンボルであった第四高等学校の歴史を振り返ります。また、四高を支えた金沢という町とのつながりにも注目し、今後の学都金沢の在り方を考えるシンポジウムの開催も予定しています。四高という存在をもとに、学都金沢の歴史と未来について考える契機になることを期待します。

詳細な日程はあらためて
お知らせします。



としょかん日誌(2006年3月～5月)

- | | | | |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 3月6日 | 第1回 学術コンテンツ運営・連携本部機関リポジトリ作業部会(学術情報センター)木下聡(図書館サービス課長)出席 | 4月20日
～21日 | 第57回北信越地区国立大学図書館協会総会(サンルート長野) 鹿島正裕(附属図書館長), 由良信道(情報部長), 木下聡(情報企画課長)出席 |
| 3月9日 | Dspaceに関する打ち合わせ(ソラン(株))内島秀樹(情報企画課課長補佐)出席 | 5月10日 | Dspace セミナー(富山大学)内島秀樹(情報企画課副課長)参加 |
| 3月27日
～28日 | Dspace セミナー, 事務打合せ(日本ビューレット・パカード, 東京大学)由良信道(情報部長), 内島秀樹(情報企画課課長補佐)出席 | 5月15日
～17日 | 平成18年度第1回学術コンテンツ運営・連携本部機関リポジトリ作業部会, 平成17年度 CSI 委託事業報告交流会(以上学術総合センター)木下聡(情報企画課長)出席 |
| 3月28日 | 第2回学術コンテンツ運営・連携本部機関リポジトリ作業部会(国立情報学研究所)木下聡(図書館サービス課長)出席 | 5月16日 | 平成17年度 CSI 委託事業報告交流会(学術総合センター)内島秀樹(情報企画課副課長), 伊川麻里子(コンテンツ第二係)出席 |
| 4月19日 | 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業公募説明会(学術総合センター)木下聡(情報企画課長), 内島秀樹(情報企画課副課長), 橋洋平(情報企画係長)出席 | 5月22日
～23日 | 機関リポジトリワークショップ(千葉大学附属図書館)木下聡(情報企画課長)出席 |

金沢大学附属図書館報「こだま」第160号

発行: 金沢大学附属図書館 編集: 広報委員会

〒920-1192 金沢市角間町 電話 076 264-5200

ホームページURL <http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

電子メールアドレス etsuran@ad.kanazawa-u.ac.jp

読者の皆様からのおたよりをお待ちしております。

2006年7月20日発行

印刷: 株式会社 橋本確文堂

表題地模様©Toku Yusui(加賀友禅染絵『さやぐ, おどる』。由水十久(初代。1913-1988)は金沢出身の加賀友禅作家です。)